

# ふるさとのお話

## 大淵の 大淵小僧

大淵の丸火自然公園の東端に小さなほこらがひっそりと建っています。ここには、大淵小僧という子供をまつつてあります。今回は、この大淵小僧のお話を紹介します。



▷丸火にあるお堂

### 手に負えない悪童

ずっと昔のこと、大淵新田に大淵小僧と呼ばれる手に負えない悪い子供がいました。

大淵小僧は、両親と死に別れ、おばあさんに育てられました。ただでさえ寂しい上に、近所の子供は「親なし子」だといって遊んでくれません。ですから、だんだん心がすさみ、畑を荒らしたり、人をだましたりするようになりました。そして、人に嫌われれば嫌われるほど、子供とは思えぬ悪さをしました。

### 小僧のたたり

困った村人は、おばあさんに注意をするよう言いましたが、おばあさんは、少しも相手にしません。村人の中には、小僧を殺してしまえという者が出てきました。名主は反対しましたが、村の中が殺気立ち殺すことに決まりました。おばあさんは、小僧に「粟の粒

ほどたたつてやれ」と言いました。翌朝、小僧は村人に殺されてしまいました。それから、小僧を殴つた人が次々と急に死に、村には原因不明の病気がはりました。

だれいうことなく「これは小僧のたたりだ」と言うようになりました。村人は、「悪いことをした」と悔やみ、子供の霊を神としてまつりました。すると、村人の病気は、たちまち直りました。

### 小学生が時々お参り

大淵三丁目の佐野うめさん(八十五歳)は、「大淵小僧の話は子供のころから自然と聞いています。地の神様としてまつられ、元の小学生などが時々お参りしているよ」と語ってくれました。



△佐野うめさん

## 地名の由来

### 呼子坂 (原田地区)



治承四年(二〇六年)源頼朝は富士川を挟んで平氏の軍と対陣しました。このとき源氏は、このあたりで呼子の笛を吹き、兵を集めたので、呼子坂と呼んだという伝説は有名です。

一説には、万葉集の「あづまじの手児の呼び坂越えかねて山にはねむもやどりはなしに」という歌の「手児の呼び坂」というのが、この呼子坂のことだともいわれています。

### こちら編集室

六月の花と言えばアジサイ。うっとうしい梅雨どきに華麗な色彩の変化を楽しませてくれます。市は昨年、大淵にある総合運動公園の散策路にアジサイを植えました。数年後には風情のある花が咲くことでしょう。その際には、紙面でも紹介したいと思います。

### 新市二十周年記念 六月の行事

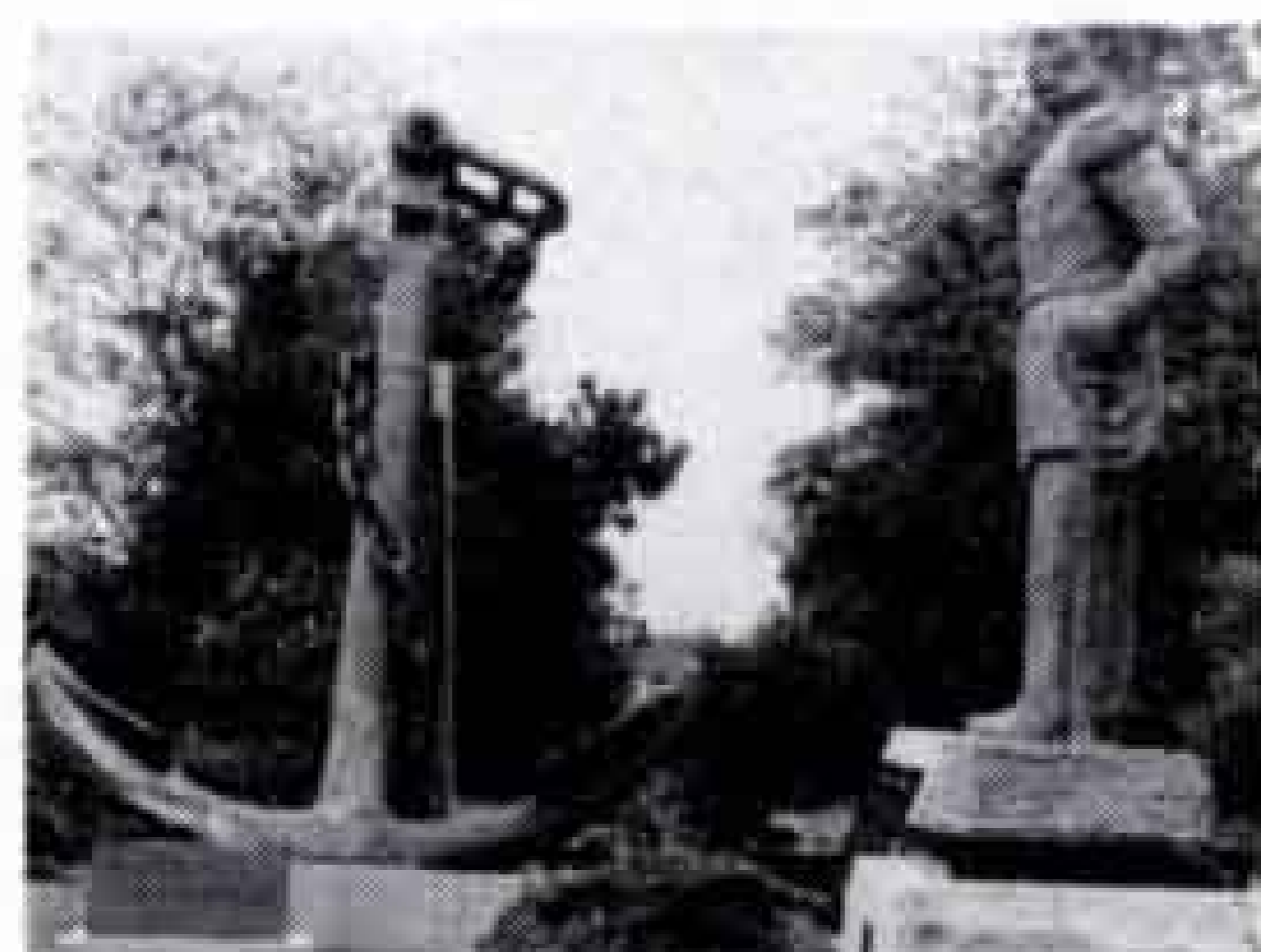
- ☆グリーンふじ21宣言碑の建立 十九日(木) 中央公園
- ☆第二十回富士の型染展 十一日(水) 一十六日(月) パピール
- ☆エコーはがきを発売 お求めは郵便局で。



新たな創造 確かな発展  
—はたちの富士市—



### 安政の 大地震



▷ディアナ号のいかり

安政元年(1854年)11月4日午前9時ごろ、東海地方を大地震が襲いました。マグニチュード8.4、震源地は遠州灘付近で、市内の村々は被害を受けました。

岩本村は皆つぶれ289軒、前田村はつぶれない家が2軒だけ、伝法村は田端と中桁で皆つぶれ25軒というありさまでした。水神の森の南側は土地が隆起し、今でも地震山と呼ばれています。

この地震のとき、日本に開国を求め下田に来ていたのがロシア使節のプチャーチンです。乗っていたディアナ号は、地震の津波で船体を破損し、修理のため戸田に向かいました。

ところが、強い西風で新浜沖まで流された上、浸水もひどく、いかりを降ろして乗組員はボートで脱出しました。

ディアナ号は沈没してしまい、いかりは昭和51年引き揚げられ、三四軒屋の公園に保存されています。